

▲日刊ゲンダイ 12月19日

正副議長現れず流会

本紙の取材や市議会事務局に提出された支出票などによると、平成23年度から同25年度までの3年間に、市川市議会議員10人が会報を送るやアンケート調査のためとして合計約10万枚、約700万円分の切手（一部ハガキを含む）を購入。このうち、同23年度と同25年度の切手購入費については、今年8月に市内在住の男性が「本党にアンケート調査、会報の郵送をしたか確認してほしい」と住民監請求を行った。監査委員は1月、監査の結果、「監査委員として調査した限りにおいては、政務活動費で購入した切手は全て政務活動等のために使われていた」と判断すると、男性の請求を棄却。しかし12月定例会議では、会派「自由民主党」と「無所属の

か「議定会日程と九かぶりの15日間で3千人分のアンケートを実施したことを不合理だと思わないのか」などと監査軍に疑問を投げかけ、最終日には越川雅史氏(無所属)が市民ネット)が百条委員会設置を發議した。

その後開かれた代表者會議では、切手は大量購入した議員が所属する一派が百条委員會議に反対の意向を示したが、残りの5会派は賛成を表明したため、この時点で百条委員が設置されることとがほぼ確実な情勢として審議する日程を追加するため、直ちに本會議は同日午後5時55分となつて12月議會の会期を時間延長することが決まつた。

続いて開かれた議會運営委員會でも同様に会期時間の延長を決め、午後4時57分に本會議を再開し、しかし大半の議員が集まつた議場には井氏と松永氏は午後5時になつても姿を見せず、自動的に流会となつた。

これと同時に、百条委員設置の發議は廃案が決定。議場に残された大勢の議員からは「市川市議會の恥をさらした」「これは詐欺だ!」「代表者會議決議はごまかされた。意圖にこういう手を使つた」と怒号が飛び交つた。

代表者會議と議運の決定を覆したことについて、岩井氏は本紙の取材に「みんなから信任を得て選ばれた議長にはその権限がある。間違ふことはしていない」としている。

政務活動費を使った一部議員の切手大量購入問題に揺れる市川市議会に、切手の大量購入について調べてる百条委員会と、この百条委の設置に賛成した議員の政務活動費全般について調べてる百条委が設置された。２つの百条委が設置されるという異例の事態を受け、大久保博市長は両百条委による調査より先に、地方自治法に基づく外部監査委員を委嘱することを決断、議会側も了承し、ひとまず外部監査の結果を待つことになった。

切手問題迫及で大揺れ

切手購入問題のそもそもの発端は、市内に住の男性が書いたブログ。男性は市議会議員の政務活動費を独自に調査し、切手問題のほか、市政関係ない資料を買っている「原料を賈つてに伴う自治体の発停止に伴う自治体の調査をどう市政に生かすか疑問」など疑義を指摘していた。

このうち切手問題に関しては、男性が８月に市に監査を請求。市監査委員は１１月、「監査委員として調査した

査委員として調査した限りにおいては、政務活動費で購入した切手は至て政務活動等のために使われたものと判断す」と男性の請求を棄却した。

切手の購入を調査する百条委は１４人が調査の対象。先月１６日の１２月定例市議会最終日に、越川雅史氏（無所属の会・市民ネット）から「監査の限界の中で、は真実が明らかになっていない」として設置

を求める議案が提出されたが、議長が議場現れずそのまま流れて廃案となったため、先月２４日の臨時議会に改めて提出された。すると切手購入側議員は、この百条委に賛成した議員のうち公明党などを除く人を対象に、政務活動費全般について調査する百条委設置の議案を臨時議会に提出、提

疑義は切手だけでは無いのに、切手だけが百条委の調査対象となるのは公平性に欠ける。政務活動費全般について調査すべき」としている。ただフロタでは、政務活動費全般に関する百条委の設置を求めた議員も多くが切手以外の疑義を指摘されているが、調査の対象には含まれていない。逆に、調査の対象者の一部には、フロダで疑義を指摘されていない議員も含まれている。

両百条委設置の議案
はい、いずれも調査対象となった議員を除片して可決。２つの百条委が同時に設置される異常事態となった。

これを受け、大久保市長は両百条委の調査より先に外部監査を実施する方針を決め、直後に開かれた各派代表者会議で報告。各派もこの方針を受け入れ、ひとまず外部監査の結果を待つことになった。大久保市長は「２つの百条委が設置され、調査を行う議員がもう一方の委員会から調査を受けることになり、職務に影響しかねない。公正な調査になるのか市民から疑念を抱かれる恐れがある」と説明した。

岩井氏が議長辞職
市川市議会の岩井清郎氏は先月24日、12月定例会議を流会にして混乱させたとして議長を辞職した。後任を選ぶ議長選挙は、1月上旬に臨時議会を開いて実施する予定。

Eメール：**contact@koshikawa-spirit.net**
(会派代表者宛となります)

「号泣県議」で話題になった政務活動費。千葉県市川市議会で昨年末、この活動費を巡って地方自治法に基づく「百条委員会」が二つ同時に設置される珍事が起きた。

発端は昨年8月の住民監査請求。複数の会派が切手を大量に購入し、政務活動費を不正に使った疑いがあるという指摘だった。11月に市監査委員が請求を棄却した後も市議会とは紛糾し、14人の市議を対象に百条委設置が提案された。ところが、疑惑をかけられた会派が、設置に賛成する18人の活動費に

関する百条委を逆提案。互いに相手の
 発議案の審議には加われないため、両
 案とも可決された。

先の提案が監督の限界を理由に挙げたのに対し、後者は問題点を「百条委で具体的に述べると明示しなかった。これでは相打ちによる募引き狙いと批判されても仕方がない。

百条委には証言拒否などに罰則規定があり、権限は強い。「前代未聞の乱用（越川雅史市議は憤むべきだ。二つの百条委の扱いは14日に決まる新議長に委ねられる。」

【中田卓二】

返信先職員の目撃証言ゼロ

政治活動費の支出伝票や本紙の取材などに用いると、当時の会派は新生市川に所属していた議員が平成24年10月、政治活動費12万円で80円切手1500枚を購入し、市議会に関するアンケート（アンケート①）を行ったとされている。切手は自らアンケート用紙に貼って手渡しやポスティングで配布し、91.1%から回答を得たという。 市議会事務局に提出	されたアンケート用紙の見本を本紙が確認したところ、返信先は市川市議会、会派名はこの議員が当時所属していた新生市川ではない、その以前に所属していた緑風会。市民から郵送で返ってきたアンケート用紙をこの議員が手にするには、議会事務局から緑風会を經由する必要がある。しかし議会事務局には、1360通以上も返ってきたはずのアンケート用紙を見たところ、言う職員が一人もいないことが判明。当時、緑風会の議員も、5人全員が「アンケート用紙は見たことがない」と断言している。 アンケート用紙を取得した経緯についてこの議員は、この問題等に関する白条委員会の設置と外部監査の実施を理由に「回答は差し控えた」としている。
--	--

この議員は、当時同 じ新市川に所属して いた別の議員１人と 会派・ボランティアの 議員１人と３人でも 同じ内容のアンケート (アンケート②)を実 施したとしている。し かし、議政事務局に提	日であるのに対し、ア ンケート②の開始日は それから２カ月半後の 翌25年2月15日。両ア ンケートをまとめて集 計するのは不可能で、 アンケート①の実施 者を除く人は、アン ケート②を含め平成24 年8月はアンケート①を して紹介した市民の意旨 を、アンケート②をし
--	---

べてが完全に一致。アンケートを集計した議員はこの点について、「2つのアンケートは合わせて集計したが、切手代を別々の会派の政務活動費で請求しているため、集計結果は2つに分けて提出した」と説明している。

だが、アンケート①の集計日は同年12月1日。2人は、2年間で実施したアンケートで切手代256万円、印刷費87万7千円の政務活動費を使用。印刷の発注先は、2人のうち新生市川に所属していた議員が取締役を務める会社で、その弟が代表を務めている。

アンケート①の印刷費は政務活動費として、2年間で取材に「印刷はうちの弟がやっていた」と思いつく。アンケート①と説明。アンケート①を実施した議員は「印刷は取締役の議員がやらせていた」と話している。

また、同市議会では、緑風会所属の議員1人も、過去2年間でアンケート①の印刷費は政務活動費として、2年間で取材に「印刷はうちの弟がやっていた」と思いつく。

刷費約29万5千円を政務活動費から支出。このうち1回分(8万円)の印刷は3人と同じ会社に発注していた。

なお、同社の電話番号はN T Tの電話番号案内(104番)やタウンページに登録されていない。平成24、25両年の決算期には確定申告を行っていないかった。

含め5回、アンケート実施者による総括の文章は3回が一言一句すべて同じだった。

2人は、議会報告会の参加者とともにアンケート用紙に切手を貼るなどして、参加者を

～湯浅止子と秋本のり子は、切手購入とアンケート調査に一切関与していません!～

平成23年当初、湯浅止子と秋本のり子（以下、「私たち」）は、勝亦竜大議員と3名で「社民・市民ネット」という会派を結成しました。その後、「ボランティア」（1名）と「新生会・市民の風」（1名）から要請があり、5名の統一会派として同年度の政務活動費の交付を受けることとなりました（『朝日新聞』12月27日朝刊も併せてご参照ください）。

「社民・市民ネット」が平成23年度に80円切手を6,000枚（合計48万円分）購入したことも問題視されておりますが、**他会派2名から持ちかけられたアンケート調査の提案を拒否したため、湯浅・秋本・勝亦の3名は切手の大量購入については不知でした。他会派2名がアンケート調査を名目に切手を大量購入し、「社民・市民ネット」名の領収証で精算したため、私たちも疑惑の対象に含まれてしまいました。**

私たちは、その多くが返信されたとされるアンケート回答用葉書を1枚も見たことはなく、アンケート結果についても未だ一言の説明も受けておりません(『市川よみうり』1月17日号も併せてご参照ください)。

以上の経緯を踏まえ、「無所属の会・市民ネット」は、湯浅・秋本両議員の潔白を証明するとともに市民に対する説明責任を果たす観点から、「百条委員会」（注）の設置を求めたものであり、会派所属議員一丸となって真相の究明に取り組んでおります。

*会派名称は当時のもの